

消 防 図 鑑

空気が乾燥し、火事が起こりやすくなる季節。
あなたの暮らしの安心・安全を守る
消防士の仕事を紹介します。

今月の表紙

消防士に憧れる
地域の子どもが
消防署を訪れる
ワンシーンも!



冬は空気が乾燥し、暖房器具を使うことが多いため、火災が発生しやすくなります。たばこ、コンロなどの火元に注意するのはもちろん、家を留守にすることが多い年末年始は放火にも気を付けなければなりません。さいたま市の昨年の火災件数は252件で、1日当たり約0.69件でした。決して他人事とは思わず、一人ひとりが注意することが大切です。

市内には10の消防署と16の出張所があり、火災や事故、急病人の発生に備え、バランスよく配置しています。約132万人の市民の生命、身体、財産を火災やその他の災害から守るため、1,300人以上の消防職員が、消防活動体制の充実と強化に当たっているのです。具体的にどんな仕事をしているのか紹介します。

こんなお仕事です!

市民からの119番通報を受け、現場に一番近い消防署や出張所、移動中の車両を選んで現場に向かわせます。迅速で効率的な消防活動を可能にし、24時間365日、災害から市民生活の安全を守ります。



指令



火災

火災現場に駆け付け、逃げ遅れた人がいないか探し、救出、消火活動をします。あらゆる災害に迅速に対応できるよう、訓練を重ねています。

電源照明車



大型水槽車



消防車両について

最新の消防車両を計画的に配備し、あらゆる災害に対応できる体制を整えています。火災現場で全ての車両に指示を出す指揮車や、ポンプ車、夜間の災害現場で使う照明車など、23種類の消防車両があり、状況に合わせて出動します。

救助

火災、交通事故、水難事故など、さまざまな災害現場に駆け付け、救出、救助に当たります。また、大規模自然災害や生物・化学テロといった特殊災害に対応できる装備と、人命救助に関する専門的で高度な知識と技術を有する、特別高度救助隊（愛称：さいたまブレイブハート）を配備しています。



こんなお仕事です！

火災現場でロープや器具を使って人を助けたり、川などで溺れている人を救出したり、交通事故に遭った人を助けたりします。多様化する災害の現場で迅速な救助ができるよう、装備や知識、技術の高度化に努めています。



水害時は水陸両用車で出動します！



救急



こんなお仕事です！

急病人などを救うため、すべての救急隊に救急救命士を配置しています。現場に急行し、処置を行いながら、医療機関に搬送します。救命効果を高めるために消防車にもAED（自動体外式除細動器）を積載しています。

さいたま市消防音楽隊

「市民と消防を結ぶ音の架け橋」として、演奏を通じて市民に消防行政を広報しています。定期演奏会に加え、市の各種行事やイベントなどに参加し、演奏します。



こんなお仕事です！

炎に強い防火服や空気呼吸器を身につけ、消火に当たります。現場では、消防隊、救助隊、救急隊が連携して活動しています。また、消火活動が終了した後も、火災原因調査を行い、火災の予防に役立ちます。



消火は隊員同士のチームワークが重要です！

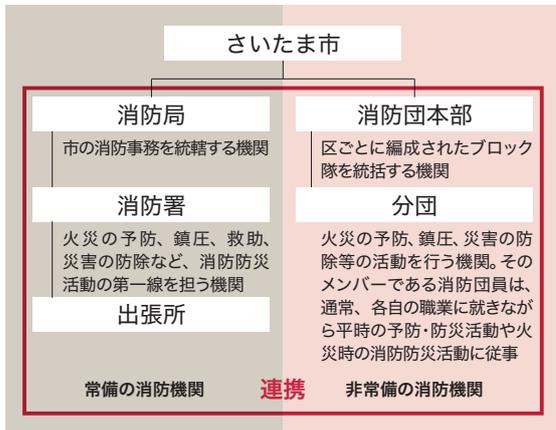


指揮車



まちを守るのは消防士だけじゃない 住民参加の**消防団**のしくみとは？

会社員、自営業、主婦、学生など、幅広い層が消防団員として活躍しています。
どんな活動をしているのか、在団中のお二人に聞きました。



消防士と一緒にまちを守る！
消防団員ってどんなひと？
消防士は常勤の公務員です。一方、消防団員は自分の仕事などをもちながら、災害からまちを守る活動をする人たち。市内に居住、在勤又は在学している18歳以上の健康な方が入団できます。災害が起きたら、都合のつく団員は自宅や職場などから集まり、消防車に乗って出動します。現場では消防士と連携して消火活動に当たります。それ以外にも、地域での防火防災意識の普及啓発活動や応急手当の指導なども行っています。活動には実績に応じた出動手当が支給されるほか、公務災害補償などもあります。

高校卒業してすぐ入団 地元のコミュニティが広がる



常盤分団に所属していた父の誘いで、高校を卒業した平成26年に入団しました。大学在学中と就職後も続けており、勤務する職場は活動に理解があると感じます。分団には僕より若い人が2人いて、うち1人は女性です。

消火や応急手当の訓練をし、火災予防の呼びかけや、イベントで消防車を見せもらう広報活動もします。平均すると、2か月に1回くらいの頻度で活動しますね。消火活動は、ホースの筒先を持つ役割を任せられることが多いです。

地元のコミュニティが広がり、有意義なプライベートが過ごせています。自分の経験を豊かにできる場所なので、多くの方に消防団に参加してほしいですね。

常盤分団 星野貴之さん

応急手当講習の 受講をきっかけに入団 もしもの時に一歩踏み出す お手伝いをしたい



応急手当講習を受講した時、広報指導分団の方から、活動に加わらないかとお誘いされ、平成23年に入団しました。職場や家族からも、理解を得られています。

広報指導分団は、応急手当講習やイベントでの防災の呼びかけといった広報活動をします。後日、講習の受講者からは、「急病人が出たときに、まず声を掛けて反応を確認して救急車を呼ぶことができ、一歩踏み出せました。」と感謝されました。自分の知識を伝えて、お役に立ったのが嬉しかったです。少しでも興味のある方は応急手当講習などに参加してほしいですし、消防団の活動にも加わってほしいですね。

広報指導分団 武井仁史子さん

消防団員を募集しています！

消防団員として地元で活動しませんか？ あなたの力が地域の安心安全につながります！

消防団は地元出身者だけでなく、転入者や市内に在勤・在学する人も入団しています。星野さん、武井さんは、活動を通して人脈が広がったとのこと。学生の消防団員活動の功績を認証する制度があり、認証状を就職活動時に履歴書に添付することも可能です。

詳しくは、消防団活躍推進室へ。☎ 833・7163 ☎ 833・7641

消防団について詳しくは、市ホームページへ。



注意

住宅用火災警報器の設置が義務付けられています！

住宅用火災警報器は、すべての住宅の寝室と寝室がある階の階段に設置が義務付けられています。火災による逃げ遅れを防ぐために必ず設置してください。また、65歳以上の高齢者のみの世帯に対しては、最寄りの消防署員が訪問での取り付けサポートを行っています。

近年の住宅火災で亡くなられた方の多くが高齢者で、ほぼすべての家に住宅用火災警報器が設置されていませんでした。

詳しくは予防課へ。
☎ 833・7509
☎ 833・7529

防火チェックリストで家族を守れ！

イラストを見ながら、できている項目をチェックしてみましょう。チェックできなかった項目は見直して火災の発生を防ぎましょう。

Illustration: ひしだようこ

キッチン

- CHECK 1** コンロの上にふきんなどを干していない
- CHECK 2** コンロのまわりに燃えやすい物を置いていない
- CHECK 3** 使用中はコンロから離れない
- CHECK 4** コンロやグリル内を定期的に清掃している

たばこ

- CHECK 1** 寝タバコはしていない
- CHECK 2** 灰皿の周りに燃えやすい物を置いていない
- CHECK 3** 灰皿に水を入れている
- CHECK 4** 灰皿に吸殻をためていない
- CHECK 5** 灰皿に火のついたタバコを放置しない

放火

- CHECK 1** 家の周りやアパートの共用部分に可燃物を置いていない
- CHECK 2** 屋外の物置や車庫を施錠している
- CHECK 3** 郵便ポストに新聞などをためていない
- CHECK 4** ごみは指定日の朝に出している

暖房器具

- CHECK 1** まわりにカーテンや家具など燃えやすい物を置いていない
- CHECK 2** 寝るときや外出するときは火を消している
- CHECK 3** 近くに洗濯物を干していない
- CHECK 4** 近くにスプレー缶を置いていない
- CHECK 5** 給油は火を消してから行っている

電気

- CHECK 1** 冷蔵庫のプラグなどにほこりが溜まっていない
- CHECK 2** 電気コードやプラグが劣化・損傷していない
- CHECK 3** タコ足配線はしていない
- CHECK 4** 電気コードが家具の下敷きになっていない
- CHECK 5** 電気コードを束ねたままで使用していない